



ワクチン開発を目的とした、アジアにおけるデング熱ウイルス感染の血清学的および分子生物学的手法を用いた疫学的動向解析

新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター 准教授 Mya Myat Ngwe Tun

デング熱は、蚊によって媒介されるデングウイルス感染症であり、毎年500万人以上の患者が報告され、死者は数万人に上ると推計されており、世界の公衆衛生にとって重大な課題です。日本でも、輸入デング熱患者数が2022年に99人、2023年に175人と増加しています。

ネパール、ミャンマー、ベトナム、マレーシア、インドネシア各国で流行しているデング熱ウイルスの継続的な血清学的および分子生物学的な疫学動向を解析し、この地域におけるデング熱疾患の動態に関する一般的な理解を深めるとともに、日本を含めた全世界規模での気候変動に伴う疾患の予防と管理に貢献します（SDGs 3・10・11・13・17）。

本研究プロジェクトは、島根大学が2022年4月に設立した新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センターの大きな柱であり、今後もグローバルに対応した機能強化を実現していきます。

